

職人に訊く

地域に生きる●職人に訊く●技から伝わる心意気

「磨き上げた技術で家を建て、時に蘇らせるそれが職人の真髄」

「幅広いお客様のリクエストにお応えできるのが当社の自慢。受け継いだ伝統技術で長く住める家を造ります」



代表 東本 博

少年時代は船乗りに憧れ、無線について学ぶために名古屋市内の理系の学校に進学した。学業修了後は機械メーカーに勤務。その間、結婚して直一氏が誕生する。10年後、実家に戻って鉄工所で働いた後、家業「東本工務店」に入った。現在、同社三代目代表を務める。

創業61年目に突入した「東本工務店」は、一般木造住宅などの新築やリフォームを行っている。さらに昔ながらの技術を活かしての古民家再生も手掛けるなど、多様な要望に応えられるのが同社の強みだ。本日は二代目代表から四代目候補までの3世代にお話を伺った。

渡嘉敷 東本代表は「東本工務店」の三代目に当たられるそうですね。

東本（博） はい。ただ、家業に入ったのは社会に出て20年後のことなんです。まず学業修了後は名古屋市内の機械メーカーに就職し、10年間勤めました。その間に息子の直一が生まれたんですよ。その後、実家のある広島に渡り、今度は

鉄工所で働き始めました。やがてバブル経済期が到来し、家業が忙しくなりました。そこで私は家業を手伝うため大工修業を始めることになったのです。

渡嘉敷 様々な環境で働いてこられた代表ですが、どの仕事に最も面白味を感じられましたか？

東本（博） 働くことが好きですからどの仕事も楽しかったですよ。でも一番面白いのは、家として形が残る大工ですね。ただ、商売について多くを学んだのは名古屋勤務時代でした。名古屋の方々から、石橋を叩いても渡らないほどの慎重さと、儲けても浮かれない堅実さを学んだんです。その教訓を活かしてバブル経済期に利益の一部を蓄えていたので、後の不況を乗り越えることができました。渡嘉敷 一方の先代は学業を修了されて以来、“大工一筋”だそうですね。東本（武） ええ。17歳で海軍に入った



先代の武雄氏と息子直一氏にも対談に加わっていただいた



二級建築設計事務所

東本工務店

広島県福山市東村町戸田 430-3

TEL 084-936-2310

URL: <http://www.tsukamoto-k.com>

のですが、その3年後に日本が戦争に負けたのです。そこで当社創業者である父の勧めで建築の世界に入りました。まずは京都で10年間修業し、主に神社仏閣の建築を学びました。金閣寺や銀閣寺の改修工事に携わったこともありますよ。伝統工法にかかわる仕事は難しいですが、大きなやりがいを感じるものでした。
渡嘉敷 あの名利を!? 確かな技術をお持ちなのですね。今も現場に出られるのですか。

東本(武) はい。ありがたいことに、私を指名して下さるお客様がいるのです。82歳ですが、まだまだ現役ですよ。

渡嘉敷 代表はそんな先代の技術を引き継いでおられるのですね。

東本(博) はい。父の伝統技術を礎に、当社では一般木造住宅やログハウスの建築、古民家改装を行っているのです。特に古民家改装は和風建築の構造を熟知していないと難しい仕事。父から学ぶことは多いですね。年間3棟ほど手掛けています。これまでに、今にも倒れそうだったお寺を蘇らせたこともありますよ。

渡嘉敷 頼もしい! 御社になら、どんな要望にも応えていただけそうですね。

東本(博) 大体のリクエストにはお応えできますよ。また当社は仕事を幅広く請けており、住宅以外に商業施設、パチンコ店を工事したことも。エリアも大阪、四国、九州と、地元・中国地方に留まりません。現在、先代を含め6人で現場へ出向いています。

渡嘉敷 そのメンバーの中に直一さんもおられるのですか。

東本(直) ええ。建設業界で現場監督

を経験した後、2005年に家業に入りました。前職で学んだ経験や知識を活かして頑張りたいと思います。

東本(博) 若い世代である息子の直一は、今の時代にあった仕事をしてくれることでしょう。例えば、私はいまだに手書きで図面を描いていますが、息子はパソコンで作成します。ですから、書類の作成などは息子に任せているんです。耐震の問題もあって提出書類が増える今、頼りになるのですよ。

渡嘉敷 既に重要な戦力として活躍されているのですね。では、直一さんが先代や先々代から受け継ぎたいことは?

東本(直) 技術力と“信頼力”を見習いたいと思います。その上で、私のカラーを打ち出すことができれば良いですね。そうして私もお客様から信頼していただける大工を目指します。

渡嘉敷 それでは、今後の展望を。

東本(博) ローコスト住宅を売りにするハウスメーカーが増え価格競争が激化する中、当社はどう生き残っていくかが課題です。私は基本に立ち返ってお客様から満足していただける仕事をするしかないと思うんですよ。当社で代々受け継がれてきた信用は、お客様を大切にしてきたからこそ培われたもの。これからもお客様にとって住みよい空間を提供する工務店であり続けます。

渡嘉敷 今後も頑張ってください。

(取材/2009年7月)

「家を生き返らせる技術は御社ならではの強みですね」

「代表たちが手掛けられた古民家の写真を見させていただきました。改装後と改装前を見比べて驚きましたね。お化け屋敷のような家が風雅な住まいに生まれ変わっているのですから。“家が生き返った”という言葉がしっくりくる変貌ぶり。お客様はさぞ喜ばれたでしょう。そんな確固たる技術をお持ちの『東本工務店』になら、どんなリフォームも安心して任せられます」



ゲスト 渡嘉敷 勝男

GUEST INTERVIEWER

一 意

専 心

良い技術はいかなる時代であっても受け継がれるもの

▼常に次世代への伝承が期待されるのが伝統技術だ。宮大工の技術もその一つ。神社仏閣や宮殿などの建築や補修を専門とする宮大工の技術は、日本古来から存在する貴重な建築物を守るための、尊い技術。しかし建築業界を取り巻く環境が変わり、新たな工法や建材が取り入れられる今、職人たちがその技術を活かす場は減っている。

▼そんな中、「東本工務店」では、金閣寺などの改修工事に携わった二代目代表によって伝統工法の技術が次代に伝えられている。そして古民家の再生など神社仏閣にかかわらず様々な建築に活かされているのだ。伝統の技術を現代建築に応用する——そうして日本の職人が守り伝えてきた技が、世代を超えて息づいている。

能 工

巧 匠